

## 第70回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年6月7日（木） 14：00－15：00
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、折木委員、中須賀委員、松本委員、山崎委員
  - (2) 政府側  
松山内閣府特命担当大臣(宇宙政策)  
和泉内閣総理大臣補佐官  
河内内閣府事務次官  
宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、佐藤参事官、須藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官  
文部科学省研究開発局 佐伯局長、谷宇宙開発利用課長、庄崎宇宙開発利用推進室長  
経済産業省製造産業局 上田審議官、轟田宇宙産業室長
4. 議事要旨
  - (1) 国際宇宙探査に係る検討状況について、文部科学省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。  
(以下、○委員からの意見、質問)
    - 国際宇宙探査については、米国が掲げる月近傍有人拠点「LOP-G」と科学探査の2本柱で進めていくとのことだと理解したが、そのために必要な予算確保をしっかりと行っていくことが重要になる。また、LOP-Gへの日本の関与として、現在、4つの技術が候補として挙げられているが、これに限らず、日本として今後どのような技術を培いたいのか、という観点から、無人技術や通信技術など、幅広く検討していくことが必要。
    - 日本として、米国が掲げるLOP-Gに参画することは、大変意義があることだと思うが、今後参画していくにあたり、日本として、宇宙探査の分野でどういう技術を手に入れていきたいのか、俯瞰的に検討していくことが必要だと思う。また、この観点からも、技術試験衛星の開発をしっかりと進めていくことが重要になる。
    - また、今後どのような体制で議論を進めていくべきかといった点も検討が必要。なるべく多くの声を聴くことが大事だと考える。
    - 例えば、ロボティクスの技術などは活用できるのではないか。ISSの場を活用し、民間の投資も活用しながら、進めていくというアイデアもあるのではないか。
    - フロントローディングが大事だが、人材育成に繋がるような小さなプロジェクトへの投資をさら

に強化するという必要があるのではないか。

- 国際宇宙探査については、費用がかかりがちだと見られている。コスト見積もりの考え方についても検討が必要ではないか。
- (2) 宇宙ビジネスを支える環境整備に関する論点整理タスクフォースについて、宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。  
(以下、○委員からの意見、質問)
  - 中国が月面での開発を積極的に進めようとしていると聞く。ルールが未整備な中で、どこかの国・企業が開発を進めていくことのないように、早期のルールづくりが必要。日本として国際ルールづくりを主導していくことが必要ではないか。
- (3) 宇宙基本計画の工程表の改訂に向けた中間とりまとめについて、宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。  
(以下、○委員からの意見、質問)
  - 宇宙分野への民間投資が進んだということは良い流れである。しかし、ベンチャーの取組だけでは、まだ規模が小さい。従来の大企業が、官需だけではなく、民需もしっかりとっていくかということを政策的に支援していくことが大事ではないか。そういった意味では、海外展開タスクフォースは、うまくいっている事例の一つだと思う。UAE への売り込みなど、成功事例が出てきている。また、インドネシアがリモセン衛星の利用の拡大を検討していると聞くが、協力の可能性があるのではないかと思う。さらに、アフリカへの貢献も今後必要になってくるのではないかと思う。
  - 利用省庁がもっと宇宙を活用していくべきではないか。各省が抱える課題解決のために、「宇宙を利用する」という考え方をもっと進めていくべき。
  - 今後、科学技術の進展があつたり、また、あたらしい課題も出て来る。宇宙基本計画を進めていくにあたって、手戻りがないように、拡張性をもってやっていくべきだと思う。
  - 早期警戒機能については、何を目標としているのか。向かうべき目的がはっきりしてくれば、研究開発の進め方など、手戻りがないように進めていくことができるのではないか。

以上